

## 黄色ブドウ球菌による乳房炎を防止しましょう。 (6～7月実施の酪農巡回によるバルク乳検査結果より)

平成23年6月～7月に管内酪農家80戸を対象に「生乳安全安心モニタリング巡回」を実施し、その際、農家の希望によりバルク乳の細菌検査を行いました。

その結果56.5% (26戸/46戸)の農家のバルク乳から黄色ブドウ球菌が検出されました。黄色ブドウ球菌は毒素を産生するため、乳製品に混入すると食中毒の原因となりかねません。また、乳房炎乳は乳等省令(乳及び乳製品の成分規格等に関する省令)で乳製品の原料としてはならないと規制されています。



### バルク乳から黄色ブドウ球菌が検出された場合の注意事項

- バルク乳に黄色ブドウ球菌を入れないために、全頭の乳汁細菌検査を行い、感染牛の摘発を行う。
- 感染牛が判明した場合は計画的淘汰の対象とする。
- 感染牛から他の正常牛への感染を防止するため、牛の並び替えを行い、最後に搾乳するようにする。フリーバーン・ストールで飼養されている農場では、極力、最後の方に搾乳するようにする。難しい場合は搾乳機器をよく洗浄・消毒し、正常牛へ感染させない工夫をする。
- 前搾りの乳は牛床に搾り捨てるのではなく(感染を広げる原因となる)、ストリップカップに入れる。
- 潜在性乳房炎による黄色ブドウ球菌感染牛は乾乳期に治療を行う。

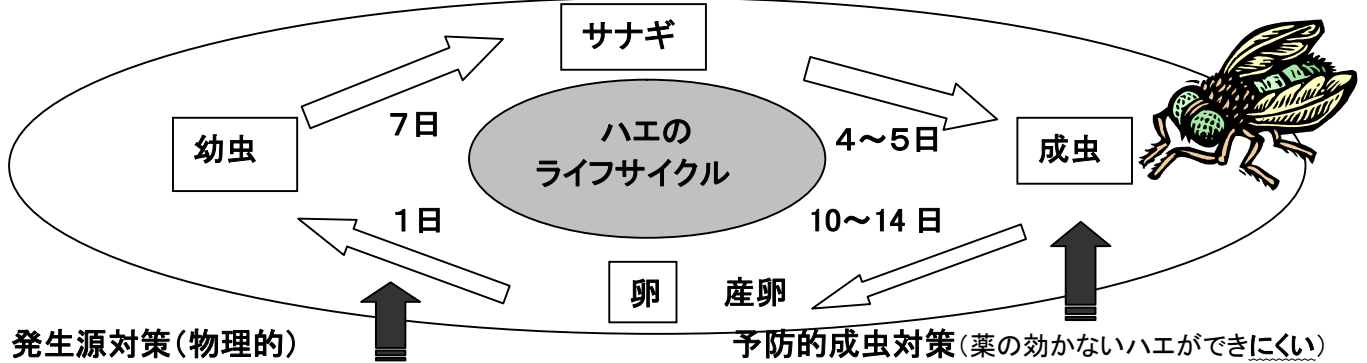
### 乳房炎防除対策のポイント

- ◎ 乳房炎を増やさない(感染・伝染防止)
  - 正しい搾乳とミルクカーの定期的点検整備
  - 乳頭ディッピングの実施(スプレー式より浸せき式の方が効果あり)
  - 適正な飼養管理(牛のストレスをできる限り軽減してあげる)
- ◎ 乳房炎を少なくする。(問題牛の治療・淘汰)
  - 臨床型乳房炎の治療
  - 乾乳期治療
  - 問題牛の淘汰



黄色ブドウ球菌感染牛の摘発には全頭の乳汁検査が必要です。検査を希望される農家の方は、農協または松本家畜保健衛生所(TEL0263-47-3223環境指導課)へ御連絡願います。

# ハエ対策について ~ 基本は卵・幼虫・サナギの発生源対策! ~



## 発生源対策(物理的)

- ・ 7日に1度除糞 幼虫が成虫になる前に
- ・ 乾燥 乾燥するとふ化率も低下
- ・ 醗酵熱 温度 40℃以上で卵死滅

## 発生源対策(薬剤)

- ・ 昆虫発育抑制剤(IGR剤)  
最も効果高いが高価  
定期的にもれなく散布すること
- ・ 殺ウジ剤 (有機リン剤等)
- ・ 消石灰、オルソ剤

## 予防的成虫対策(薬の効かないハエができていく)

- ・ 毒餌法:カーバメイト剤、有機リン剤等と、砂糖や酒を混ぜてハエの止まる場所に設置
- ・ 市販の毒餌:クロロニコチル剤
- ・ 残留噴霧:有機リン剤等を畜舎の壁や天井などハエの止まる場所に噴霧しておく

## 緊急的成虫対策(薬の効かないハエができていく)

- ・ 空間噴霧(ピレスロイド剤等)  
あくまでも一時的なハエ減少  
畜体に噴霧する場合は、休薬期間に注意

## 薬の効かないハエが出ないようにするには?

- ・ ローテーション使用 (系統の違う薬を一定期間毎に変更) (例) A系統 → B系統 → C系統
- ・ コンビネーション使用 (2系統の薬剤を同時に使用) (例) A系統 + B系統

## 殺虫剤の種類 (一例) 用法・用量、休薬期間等を確認して適正に使用してください。

	系統	成分	休薬期間	畜体散布の可否	商品名(名称一部は省略)
幼虫	昆虫発育抑制剤(IGR系)	シロマジン(蛆) ジフルベンズロン(蛆・ポウフラ) ピリプロキシフェン(蛆・ポウフラ) トリフルムロン(蛆)	-	畜・鶏体へ直接散布しない	シロマジン、ネホレックス デミリン PPK、サイクラーテ、スミラブ、ラモスSG(蛆) ヨモベット
	有機塩素系	オルトジクロロベンゼン(蛆)	-	畜・鶏体へ直接散布しない	オーチストン、コックトーン、シービービー、ゼクソン、タナベゾール、トライキル
幼虫・成虫	有機リン系	フェニトロチオン(ハエ・カ) トリクロロホロン(ハエ・カ) ジクロロポス(ハエ・カ) プロパタンホス(ハエ・カ) プロチオホス(ハエ)	牛60日豚20日鶏14日 牛14日豚2日鶏20日	畜・鶏体にかからないようにする	スミチオン ネグホン、 DDVP、ラビホス、スミチオンVP サンモス
		ペルメトリン(ハエ・カ) イトフェンロックス(ハエ・カ) d-d-T80-プラレトリン(ハエ・カ成虫、ハエ幼虫)	豚2日	用法に直接噴霧可の記載有り	ETB、ペルメトリン乳剤 スパレン
	カーバメイト系	プロボクスル	牛4日鶏34日	畜・鶏体にかからないようにする	ホルホ
		2-セカンダリーブチルフェニル-N-メチルカーバメイト	牛豚7日鶏15日(搾乳牛は除く)	搾乳直前の乳牛への直接散布は避ける	バリゾン
成虫	ピレスロイド系	アレスリン(カ)	-	-	アースノーマット、かとりせんこう(俗称)
		フェトリン(ハエ・カ)	-	(畜体散布の認可登録は無い)	スミスリン
		シフルトリン(ハエ) フタルスリン(ハエ、カ)	-	畜・鶏体にかからないようにする	バイオフライ ネオピレ
	ネオニコチノイド系	ジノテフラン(ハエ)	-	畜・鶏体にかからないように。家畜・家禽がなめることがないようにする	フラッシュベイト、エコスピート
	クロロニコチル系	イミダクロプリド(ハエ)	-	家畜が経口摂取出来ない場所に容器に入れて設置	ノックベイト

上記表の商品は、単一の成分のものを記載しましたが、現在は複合剤商品も数多くなっています。